

MⅡ29-1

2026年度 大学院入学試験問題【Ⅱ期】

文学研究科 臨床人間学専攻 臨床心理学専修（博士前期課程）

科目：論文・専門科目（解答使用＝不可）

〔解答用紙は1問につき1枚を使用し、問題番号を明記すること。〕

◎【Ⅰ】から【Ⅲ】のすべての問題に解答しなさい。なお、解答用紙は1問につき1枚（問題【Ⅲ】は2枚）使用しなさい。

【Ⅰ】以下の事例を読んで、設問に答えなさい。

初診時41歳の女性のAさん。11歳と5歳の男児を育てるシングルマザーである。

公立保育園の保育士として長年働いてきたが、不眠傾向や気分の落ち込み、身体の倦怠感などを感じ、しばらくは自力で何とかしようと頑張ったものの、勤務中の様子から周囲に知られることとなり、近くのメンタルクリニックを訪れたところ、初期のうつ病と診断を受けた。

服薬と2か月の休養の措置が取られ、本人も「担当する子どもたちが気になる。早く復帰したい」と述べていたが、さらに休養期間2か月の延長を経ても大きな改善はみられず、ドクターとの面談中に涙が止まらなくなったことを契機に、併設の心理相談室で働く心理士にカウンセリングのオファーが入った。

面接が進むうちに、本人の小学校時代に実父が出奔したため、実母が5人の子どもを抱えて昼夜働きに出ることになったが、家では横になってAさんに頼ってきたため、長女であったAさんは母親に代わって家事全般や弟妹の世話などを一人で担うこととなったこと、友だちと遊ぶ時間や好きだった勉強に集中する時間も失われ、何とか進学した高校の授業料はアルバイトで全額自力で賄ったことなどが語られた。

また、28歳で結婚したが、Aさん36歳時に生まれたばかりの次男を含めた家族3人を置いて夫が家を出てしまい、裁判で養育費を確定させたものの支払いが滞ることもあり、日々の疲れのなか、保育士の仕事を懸命に続けてきたことも分かった。

〔設問1〕Aさんは、令和6年に改正・施行された「子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律」（子ども・若者育成支援推進法）のなかで、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」と法的に定義され、国や地方自治体による支援が必要な対象に該当したと考えられる。その名称を答えなさい。

〔設問2〕その名称に対する支援の際、心理士としてどのような姿勢が必要か。Aさんへの対応を含めて、現段階であなたが考えるところを述べなさい。

MⅡ29-2

2026年度 大学院入学試験問題【Ⅱ期】

文学研究科 臨床人間学専攻 臨床心理学専修（博士前期課程）

科目：論文・専門科目（辞書使用不可）

〔解答用紙は1問につき1枚を使用し、出題番号を明記すること。〕

【Ⅱ】正の強化、負の強化、正の弱化、負の弱化の4パターンについて、例を一つずつ挙げた上で、その各例について、「正」「負」、「好子」「嫌子」、「強化」「弱化」という用語を適宜使用して説明せよ。

【Ⅲ】以下の用語について、(1)から(8)までのうち5つを選択して、簡潔に説明しなさい(150～200字以内)。
解答する際は、どの問題を選択したかがわかるように、問題の番号を明示しなさい。

(1) ピア・サポート

(2) 確証バイアス

(3) 発達最近接領域 (Vygotsky, L.S.)

(4) マーガレット・S・マラー

(5) パラフィリア症群 (DSM-5-TR/ICD-11)

(6) 効果量

(7) 心的外傷後成長 (Posttraumatic Growth)

(8) 投射法